

スポーツ関連の支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

暑さも和らぎスポーツをするのに良い季節となりました。この季節に運動会や体育祭が開催されることも多く、「スポーツの秋」とも言われます。そこで、今月はスポーツ関連の支出（運動用具類、スポーツ月謝、スポーツ観覧料及びスポーツ施設使用料^注）について、家計調査結果からみてみましょう。

注）スポーツ施設使用料は、収支項目分類改定により、平成22年1月から、ゴルフプレー料金、スポーツクラブ使用料及び他のスポーツ施設使用料に分割されています。

増加傾向のスポーツ施設使用料及びスポーツ観覧料

1世帯当たり年間支出金額の推移を平成2年を100としてみると、ゴルフプレー料金、スポーツクラブ使用料などを含むスポーツ施設使用料及びスポーツ観覧料は近年増加傾向にあり、21年は2年の約2倍となっています。一方、運動用具類は平成2年の約7割、スポーツ関連全体ではほぼ同水準で推移しています（図1）。

7月及び8月に多いスポーツ観覧料

次に、月別支出金額（平成19～21年平均）を、年平均を100としてみると、スポーツ観覧料は他の月に比べ7月及び8月に多くなっており、運動用具類は3月及び4月に多くなっています（図2）。

スポーツ関連の支出が多い40～49歳の世帯

最後に、1世帯当たり年間支出金額（平成21年）を世帯主の年齢階級別にみると、スポーツ関連全体では40～49歳の世帯が最も多く、最も少ない29歳以下の世帯の約4倍となっています。内訳をみると、運動用具類、スポーツ月謝及びスポーツ観覧料は40～49歳の世帯が、スポーツ施設使用料は60～69歳の世帯が最も多くなっています（図3）。

図1 スポーツ関連の年間支出金額の推移
(平成2年=100)

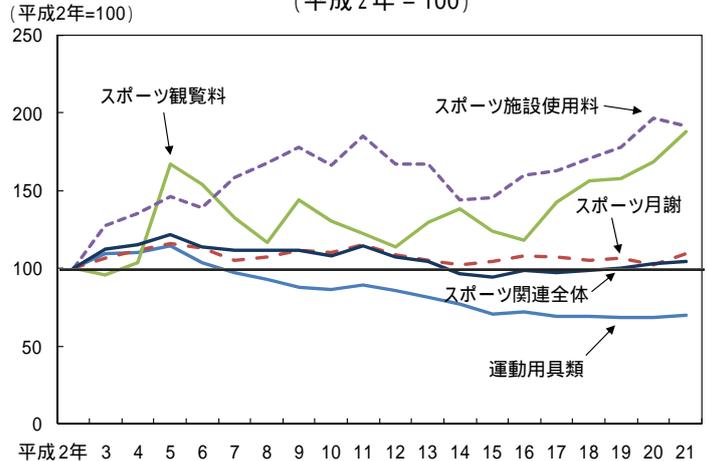


図2 スポーツ関連の月別支出金額
(平成19～21年平均、年平均=100)

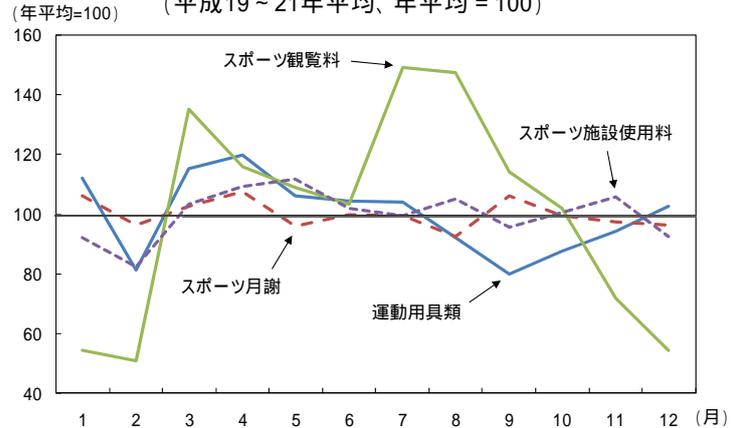


図3 世帯主の年齢階級別スポーツ関連の年間支出金額
(平成21年)

